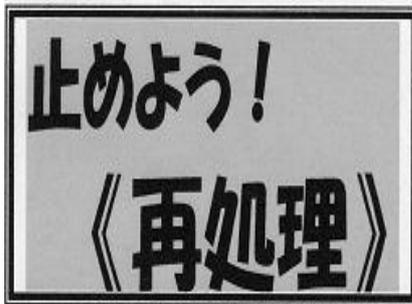


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
2021(令和 3年)
11月23日
第226号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

高レベル廃液貯槽の 重大事故基準の相違

IAEAの安全指針: 「廃液貯槽の破裂」!

日本の再処理規則: 「蒸発乾固」

条文の比較

「天恵の海」
第二二四号
参照

IAEA SAFETY STANDARDS (国際原子力機関 安全指針)

Threat summary (脅威の概要)

大型の液体貯槽(*注)の破裂は、広範な介入を必要とする汚染を生じさせるであろう。これは含有放射能とその揮発放射能の作用による。 (*注)国は「高レベル廃液貯槽」を指すと認めている。天恵の海第224号 参照)

日本「再処理規則:使用済み燃料の再処理事業に関する規則」

重大事故 第一条の三 (重大事故とは)次に掲げるものとする。

- 一 セル内において発生する臨界事故
- 二 使用済燃料から分離された物であつて液体状のもの又は液体状の放射性廃棄物を冷却する機能が喪失した場合にセル内において発生する蒸発乾固
- 三 放射線分解によつて発生する水素が再処理設備の内部に滞留することを防止する機能が喪失した場合にセル内において発生する水素による爆発
- 四 セル内において発生する有機溶媒その他の物質による火災又は爆発 (前号に掲げるものを除く。)
- 五 使用済燃料貯蔵設備に貯蔵する使用済燃料の著しい損傷
- 六 放射性物質の漏えい (前各号に掲げる事故に係るものを除く。)

六ヶ所再処理工場は昨年八月規制委員会の「再処理規則」に合格したとされ「使用前検査」の段階にあります。しかし、日本の「再処理規則」の「重大事故」の条項には、蒸発乾固後の揮発・爆発について記されておらず、IAEA(国際原子力機関)の「安全指針」から見ても重大な欠落であり、国民の安全を守る姿勢が問われます。冷静に条文を比較し、工程図や事故の歴史について認識を深める論議が必要です。

蒸発乾固が重大事故? 貯槽破裂こそ重大事故!

放射性物質の放出量の増減カーブ



工程図点検

いままで最大の重大事故がいつまで「ウラルの核惨事」を知ろう！

歴史に 学ぶ

再処理工場の重大事故についてIAEAの「脅威の概要」では、「大型の液体貯槽（高レベル廃液貯槽）の破裂は広範な介入を必要とする汚染を生じさせるであろう。これは含有放射能とその揮発放射能の作用による」と記しています。しかし、日本の再処理規則の「重大事故 第一条の三」には、どこにも該当事項の記述がありません。高レベル放射性廃液の冷却に失敗すれば、「蒸発乾固」の後「溶融揮発」、最終的に「硝酸塩爆発」による貯槽の破裂に至るとIAEAは懸念しています。臭い物に蓋をするようなことはいけません。

「ウラルの核惨事(キシメム事故)」は硝酸塩爆発

高レベル放射性廃液重大事故の実例として、一九五七年に起きたウラル山脈南東部のキシメム核施設の爆発があります。旧ソ連の核爆弾製造に関わる事故で、「高レベル放射性廃液貯槽」の冷却に失敗し、硝酸塩爆発が起きました。

広大な地域が汚染され、多くの人々が被ばくした

爆発の威力は、TNT火薬七〇トン相当と言われ、廃液のストロンチウム90やセシウム137、プルトニウム239などが約千以上空まで舞い上がり北東方向に幅約三〇〇〜五〇〇キロ、長さ約三〇〇キロの帯状に飛び散りました。チェリヤビンスク市付近から、森や畑、河川等が汚染され町や村に被害をもたらしました。その放射線は三・七〜七四が

ベクレル/平方キロメートルと言われ、約三万四千人が被ばくしました。冷戦下の軍事工場での事故でしたので長い間秘匿され、被ばくによる人体への被害は長く続き、既に約二十万人が被害を受けたともいわれます。

想定される重大事故を正しくシミュレーションし有効な防止対策を！

高レベル放射性廃液の存在は、非常に危険なことです。今必要なことは日本の科学技術陣の粋を集め、重大事故の進展予測を正しく行い、その結果に基づき対策を実施することです。巨大な災害をもたらす危険な高レベル放射性廃液は作らず、作ってしまった廃液は直ちに「ガラス固化」などの安全化を行わなければなりません。

ウラルの核惨事



約300kmの汚染地帯

1957年に起こったこの重大事故は、チェルノブイリ・福島に先立つ核汚染の最初の重大事件です。現在にも続いているその被害実態を知りたいものです。

「ウラルの核惨事」検索

『アトミカ』 [ATOMICA_04-10-03-03\[15247\].pdf](#)
『グリーンピース』 [ご存知ですか チェルノブイリ、福島第一につぐ第3の原子力事故 - 国際環境NGO グリーンピース \(greenpeace.org\)](#)

NUMO 説明会 盛岡会場 10.27 アイーナ7F

ガラス固化体の中身を説明出来ず？

一般出席者21人。4グループ・4室に分かれて5〜6人の小会合。1時間の説明。その後1時間の質疑応答。質問を小カードに書いて集約。本会から6人が3室に出席。(他に報道関係者)

質問同て回答も
出席会員の報告(抜粋)
埋めるほど安全なのか？

◇「十分に検査をして埋めるので、安全」との説明に、埋めるとかえってガラス固化体の状況が分からず、危険ではないか？との問いに対し、「規制庁が検査するから大丈夫」との回答。
文献調査終了後の判断は誰がするのか？
◇文献調査終了後、先に進むかどうかの判断はどこでするのか？との質問に、NUMOで行うとのこと。中立的な機関で行うべきだと参加者の指摘。
ガラス固化体の中身は？
◇「ガラス固化体」には、プルトニウムやウランはほとんど入っていないとの説明に対し、「配布資料のグラフでは入っている」との指摘があり、担当者は「少しは残る」と回答。私たちはガラス固化される廃液中の放射性物質の重量比の約七割がウランであることを指

摘しました、ウラン・プルトニウムの回収率も聞いたが知らない様子でした。
◇ガラス固化体を作るのに四兆円、一本あたり一億円かかるとのこと。

◇配布資料の中に「高レベル放射性廃棄物は人間が管理するのは困難」、とあるが、そんな危険な物を作り続けてはいけなのではないか？との複数の参加者の問いかけに、「だから、埋めるのだ」と回答しました。
TRU廃棄物も地層処分対象
◇TRU(超ウラン元素)廃棄物も地下処分することになっている。埋設時の形態はまだ決まっていない。寿都町、神恵内村にはまだ説明していないとのこと。
地下水の危険性は？
◇資料中に「道産に地下水が出て来るのは普通のこと」とあったが、ドイツのアッセ最終処理場では、地下水が出てきたので、埋設する場所としては不適切判断し、回収を始めています。(この指摘に対し、意味不明な回答でした。(M&R))